



年月日	平成 27 年 1 月 30 日
発行	防災対策課
所属長	課長 藤井 大輔
電話	06-6489-6165

## 1 「尼崎市防災ブック（保存版）」のホームページ掲載について

市民の皆様へ全戸配布した尼崎市防災ブック（保存版）の PDF ファイルをホームページに掲載しました。

日本語版、英語版、中国語版及びハングル版の 4ヶ国語を掲載しています。地域での防災訓練や勉強会などにご活用ください。また、尼崎市防災ブックの活用方法などの説明等については、本市で実施している市政出前講座をご利用ください。

尼崎市防災ブック（保存版）の検索は

尼崎市防災ブック保存版

検索



1月14日のラジオ関西「時間です！林編集長」の「イブニングひょうご」のコーナーで、防災対策課の山崎課長補佐が生電話で防災ブックの活用を説明しました。



又は、

[http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/bosai\\_syobo/information/32579/index.html](http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/bosai_syobo/information/32579/index.html)

## 阪神淡路20年

— 1.17は忘れない —



## 2 「1. 17は忘れない」地域防災訓練について

阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承し、市民一人ひとりが大震災を忘れず、将来の災害への備えの充実、地震災害に対する対策を図るため、地域等における自主防災組織、社会福祉協議会などの地域住民と学校が連携した防災訓練を実施するとともに、犠牲になられた方々に謹んで哀悼の意を表し、黙禱を捧げました。

日時：平成 27 年 1 月 16 日（金曜日） 午後 1 時 20 分から

場所：メイン会場 尼崎北小学校

地区会場 明城小学校、浦風小学校、成徳小学校、武庫北小学校、園和北小学校

訓練想定

平成 27 年 1 月 16 日午後 1 時 20 分、紀伊半島沖の海底を震源とするマグニチュード 9.1 の海溝型地震が発生した。  
このため、本市においては震度 6 弱の地震にみまわれ、大津波警報が発令された。  
また、地震発生後約 117 分で津波の第 1 波が尼崎港へ来襲する見込み。  
津波高は 4m に達する予測であり、市域全体に浸水の恐れがある。

また、災害初期行動訓練として、緊急速報メールを利用した「ひとり一人がはじメール」尼崎市一斉防災訓練も併せて行いました。



生徒達の校庭への避難誘導訓練



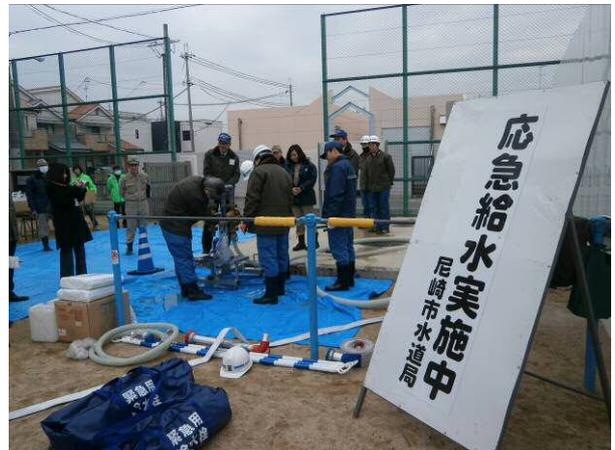
体育館で寸劇風の応急手当訓練

### 3 地域の防災訓練について

(1) 塚口西自主防災会防災訓練（1月16日（金） 15時15分～16時30分 約210名参加）



可搬ポンプ取扱訓練



耐震性貯水槽給水用資機材設置訓練

### 4 阪神・淡路大震災から20年の企画（FMあまがさき）

#### その1「～阪神・淡路大震災で学んだこと～」



ラジオ番組『いなむら市長の「ひと咲き まち咲き あまがさき」』、1月放送分では、20年前の阪神・淡路大震災を機に、職場で様々な防災対策に積極的に取り組む、株式会社 神崎高級工機製作所の取締役 総務部長、仲神 利春さんをゲストに、稲村市長と「防災」について語り合っていました。

稲村市長

震災後、どのような防災対策を進められましたか？

仲神部長

まずは工場内の地震対策強化を。具体的には、機械をアンカーボルトで固定し、工具などの落下防止を徹底させました。そして社内には、水や食料、防災用品を備蓄し、社員の安否確認のための連絡体制も整えました。

また、市消防局のOBを、当社の防災担当顧問にお招きし、社内の防災教育などを進めました。



稲村市長

なるほど。まさにソフト・ハード両面での対策ですね。

仲神部長

そして、秋の全社あげでの防災訓練では、消防や警察と連携し、はしご車による避難訓練や、AEDの使い方講習も実施しており、また、普段からも消防署とのコミュニケーションを密にとっています。企業には、出勤時であればたくさんの人（助け手）がおり、フォークリフトなど災害時に役立つ機器類もありますので、地域と連携した防災体制が作れると思います。

稲村市長

神崎高級工機製作所さんには、すでに防災協会の役員や、「津波等一時避難場所」へのご登録などで、地域へのお力添えをいただいておりますので、さらにそうおっしゃっていただけるのは、本当に心強いです！ 今後も引き続き、消防署との訓練を続けられるとともに、地域の防災対策へのさらなるご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます！

## その2 「～いま私たちにできること～」



ラジオ番組『阪神・淡路大震災から20年～いま私たちにできること～』、1月17日放送分で、衣笠防災担当局長が、南海トラフ巨大地震等、災害の発生に備え、市民の防災意識の高揚のため実施している防災対策について、次のとおり語りました。

- ・ 災害時における市民への情報伝達については、これまでは防災行政無線を中心に屋外拡声器、戸別受信機、防災ラジオ等により行ってきましたが、さらにパソコン、携帯電話等のSNS（ソーシャルネットワーク）の普及により、ホームページ、尼崎市防災ネット、フェイスブック、ツイッター、ライン等を利用し、多層的に発信しています。
- ・ 昨年6月に兵庫県が公表した「南海トラフ巨大地震」の被害想定によると、尼崎市では震度6弱の地震が発生し、それによる津波（最高+4.0m）の第1波が117分で到達すると想定されています。そのため、自分の住んでいる所の地盤の高さを認識してもらうため、コミュニティ連絡板や市バス停留所に海拔表示板を設置しています。
- ・ 災害が起こった場合には、自分の命を守る行動が迅速にとれるよう、災害時の避難場所、各種災害別の浸水ハザードマップ、日頃の備え等、様々な防災情報を掲載した「尼崎市防災ブック」を全戸に配布しましたので、市民の皆様にご利用して頂きたいです。

## 5 気仙沼市への支援について

### (1) 職員の派遣状況

○派遣期間・・・平成26年4月1日～平成27年3月31日（1年）

○派遣人数・・・土木職2人（建設部都市計画課土地区画整理室 所属）

土木職1人（建設部下水道課 所属）

事務職1人（総務部税務課 所属）

以上